

つくる・売る・遊ぶ・街  
上野  
ダウタウン

下谷・御徒町めぐり

広小路・仲町エリア  
アメ横・御徒町エリア  
かちくらエリア

東京文化資源区案内 5 日本語版



つくる・売る・遊ぶ文化が  
花開いたまちを紐解く

庶民が築上げた街・上野ダウタウン

「文化の杜」として知られる上野の山が、幕府や政府、神社といった公の管理のもとで形成されていったのに対して、上野の山の下は、江戸時代から不特定多数・多種多様な人々の交流によって形成されていった街といえます。上野広小路や不忍池沿いの仲町エリアには花街の文脈を引き継いだ歓楽街が今も残り、鉄道の高架沿いには、戦後の闇市に端を発する賑わいとエスニックな文化が入り混じる商店街・アメ横が延び、そして東の隅田川方面へと広がる街では江戸・明治のものづくり職人の集積に始まり、今では若いデザイナーなど新たにやってきた人々によってものづくりの文化が更新されています。このガイドブックでは、つくる・売る・遊ぶ街「上野ダウタウン」の文化を紹介し、街の歴史が感じられるスポットを案内します。

表紙の絵は「名所江戸百景 下谷広小路」歌川広重（初代）（1856年）。江戸時代の上野・御徒町は寛永寺の門前町として常に賑わっていた。



「上野ダウタウン」ルート

上野の繁華街から東京のものづくりの中心へ

このルートは上野の山の下から東へ進みながら、江戸時代から現代まで商業で栄えた街の変遷を辿ります。まずは上野広小路から出発し、不忍池と花街のルーツを持つ仲町エリアを周り、高架の両側に溢れるアメ横で戦後のヤミ市の賑わいを味わいます。ここより東の隅田川に面する蔵前までのエリアが、豊かな職人文化を受け継ぎ、近年、若者によるものづくりが注目されている地域です。北の浅草方面へ歩くルートでは昔から残るものづくりや下町文化が感じられます。南の蔵前駅方面には、若者による新しいお店が多く集まっています。このルートの周りに「つくる・売る・遊ぶ」文化に関わる場所が多く集積しているので、自由に気の赴くところへ足を運んでみてください。

●「上野ダウタウン」主要な最寄り駅

- 上野駅（JR 山手線・京浜東北線・常磐線など、東京メトロ銀座線・日比谷線）
- 上野御徒町駅（都営大江戸線）
- 御徒町駅（JR 山手線・京浜東北線）
- 浅草橋駅（JR 総武線、都営浅草線）
- 田原町駅（東京メトロ銀座線）

●各施設の主な行事

日付はWEBサイトなどでご確認ください。

5月中旬  
下谷神社大祭

台東区で一番早いと言われる祭りで、5月半ばに行われます。本祭では7000人の担ぎ手が氏子地域を回ります。露店も数多く開かれます。

<http://shitayajinja.or.jp/>



5月下旬  
モノマチ

かちくら（御徒町・蔵前・浅草橋）のものづくりの歴史と街の魅力に触れる三日間のイベントです。ものづくりの職人の手仕事を体験できる地域一体型のイベントで、2011年から開催されています。

<http://monomachi.com/>

6月上旬  
鳥越神社例大祭

1360年の歴史を誇る祭りで、毎年6月に行われます。重さ4tにもなる千貫神輿は都内随一の規模で、数万人が集まる蔵前の風物詩となっています。

7～8月  
うえの夏まつりパレード

30年以上の歴史がある祭りで、7月から8月にかけて、不忍池～上野広小路で様々なイベントが行われます。中でも上野中央通りで行われるパレードは壮観です。

<http://www.ueno.or.jp/parade/>

12月29～31日頃  
年末の買い出し

アメ横のマーケットが最も賑わうのは、正月用品の買い出し客が殺到する年末です。1日の来客は30～50万人だと言われており、東京の正月を代表する風景として有名です。



このパンフレットで  
紹介した主な施設・スポット

広小路・仲町エリア

- 鈴木演芸場（台東区上野 2-7-12）
- お江戸上野広小路亭（台東区上野 1-20-10）
- 落語協会（黒門亭）（台東区上野 1-9-5）
- 仲町通り（台東区上野 2）
- 吹貫横丁（台東区上野 2～文京区湯島 3）
- 道明（台東区上野 2-11-1）
- 十三や（台東区上野 2-12-21）
- アーツ千代田 3331（千代田区外神田 6-11-14）
- 不忍池（台東区上野公園池之端 3）

アメ横・御徒町エリア

- 摩利支天（台東区上野 4-6-2）
- アメ横センタービル 地下食品街（台東区上野 4-7-8）
- キムチ横丁（台東区東上野）
- 燕湯（台東区上野 3-14-5）
- アッサラーム・ファンデーション（台東区台東 4-6-7）

かちくらエリア

- 佐竹商店街（台東区台東）
- 仏壇通り（台東区）
- おかず横丁（台東区鳥越 1）
- 台東デザイナーズビレッジ（台東区小島 2-9-10）
- AKI-OKA 2k540（台東区上野 5-9）
- 木本硝子（台東区小島 2-18-17）
- SyuRo（台東区鳥越 1-16-5）
- 郡司味噌漬物店（台東区鳥越 1-14-2）
- カキモリ（台東区三筋 1-6-2）

東京文化資源区案内 5  
「つくる・売る・遊ぶ・街 上野ダウタウン 下谷・御徒町めぐり」

発行・問い合わせ先◎東京文化資源会議  
【住所】〒101-0054 千代田区神田錦町 2-1  
【電話】03-5244-5450 【FAX】03-5244-5452  
【メール】info@tohun.jp 【WEB】<http://tohun.jp/>

文／Sam Holden、潘夢斐、逢坂裕紀子、中戸翔太郎、柳与志夫  
撮影／小泉賢一郎 デザイン／スタジオ・ポット  
2018年10月25日発行／7,000部／両面4色／マットコート 90kg



協賛企業

 朝日信用金庫

 AGC  
※7月1日より社名変更しました

 Google Japan G.K.

 JTB  
感動のそばに、いつも。

 新日鉄興和不動産

 ZENRIN

 Tanseisha

 dentsu

 株式会社 東京ドーム

 NIKKEN

 野村不動産

 HAKUHODO

 都市に豊かさと潤いを  
三井不動産

 三菱地所

 株式会社 ムヤマ

 安田不動産

 YKK®

UP TOKYO を歩こう  
東京文化資源会議がつくる東京都心北部の新たな魅力

東京文化資源会議は、東京都心北部（東京文化資源区、通称 UP TOKYO）の豊かで多様な文化資源に注目し、その発掘・活用を通じて新たな文化資源の再創造につなげることを目的とする、産官学民の有志からなる任意団体です（2015 年 4 月発足）。

本パンフレットは、その活動の一環として、この地域内のユニークな文化資源を体験できる、ユニークなルートを紹介するシリーズです。

「東京文化資源区案内」シリーズ

Vol.1 江戸・東京の精神文化を紐解く  
湯島・神田・秋葉原めぐり（2017 年 4 月 1 日発行）

Vol.2 江戸・東京 知の交差路“グレーターアキバ”  
秋葉原・神田・神保町めぐり（2018 年 7 月 25 日発行）

Vol.3 江戸・東京 水を愉しむ文化都市  
上野・本郷・後楽園めぐり（2018 年 8 月 25 日発行）

Vol.4 スポーツを遊ぶ！ 近代スポーツ発祥の地をたどる  
神田・皇居・後楽園めぐり（2018 年 9 月 25 日発行）

上野の街で栄えた  
つくる・売る・遊ぶ  
文化をたどる

上野公園の東南に広がる「上野タウン」で、  
様々な時代の人々によって作られた歓楽街、  
マーケット、そして職人の街へ出かけてみましょう。

『江戸名所上野仁王門之図』。「三橋」の両側に料理屋や商店がたくさん立ち並ぶ江戸有数の繁華街だった。奥には寛永寺が描かれている。

1 上野のメインストリート・  
広小路

▶寛永寺の門前町として始まった下谷  
上野の山下にある「下谷」の街はもともと寛永寺の門前町として発展してきました。寛永寺は、徳川幕府の安泰と万民の平安を祈願するため、慈眼大師天海大僧正によって1625（寛永2）年に上野の山に建立されました。天海大僧正は、清水寺や琵琶湖の竹生島に見立てて清水堂や不忍池弁天堂を築き、山内には桜を植樹するなど、市民の憩いの場となるような境内の景観づくりを積極的に行いました。こうして寛永寺が江戸の名所のひとつとして市民に親しまれ、多くの参拝客を集めるようになった結果、山下には門前町が栄えることとなります。

▶行楽客と商人が集まる江戸の盛り場

現在の上野公園入口から御徒町の松坂屋にいたる「広小路」と呼ばれる一帯は、1657（明暦3）年に起きた明暦の大火ののち、道幅を広げて火除け地となったことがその

始まりです。広小路は将軍が寛永寺参拝のさいに利用した御成道（おなりみち）と呼ばれる当時の主要道路の一部であり、沿道には料理屋や食料品店などの商店が建ち並びました。また、現在の中央通りと不忍通りが交錯する場所には明治時代まで忍川という川が流れ、そこに三つの橋がかけていたことから三橋と呼ばれました。広小路は寛永寺の参拝客や、周辺の商店を訪れる人々が多数往来する繁華街として、江戸時代の多くの浮世絵や錦絵にも描かれています。

2 花柳界の  
歴史を受け継ぐ仲町

▶不忍池畔は江戸の遊びの場だった  
現在の不忍池畔、特に南側に広がる池之端仲町の歴史も江戸時代にまで遡ります。現在は上野エリアの繁華街として夜に賑わいをみせる仲町ですが、その始まりは江戸の花街でした。池畔に立ち並ぶ多くの仮設茶屋には湯島天神や寛永寺など社寺に参拝する行楽客が集まり、やがて人目を忍ぶ恋人の密会の場としても人気になっていきました。明治・大正になると仮設の茶屋は常設化、二業組合・三業組合が生まれ、東京でも有数の花柳界となっていきました。最盛期は大正末期、学者・書生・商人・職人・華族、様々な客が集う場所でした。戦後はキャバレーやクラブなどに姿を変え、いまでもその賑わいは続いています。

▶花街から続くものづくりや飲食の老舗も多数

池之端仲町は、繁華街という面だけでなく、老舗が残るまちという別の顔も持っています。周辺に社寺があったり花街の芸妓がいたこともあって、ものづくりの職人が集まる場所でもあり、いまでも組紐を売る「道明」や、櫛を作る「十三や」が店舗を構えている他、飲食では鰻割烹の「伊

『江戸高名会亭尽・下谷広小路』。不忍池の景観は上野の料亭や茶屋に多くの行楽客を引き寄せた。

『江戸図屏風』の一部、17世紀。国立歴史民俗博物館所蔵。江戸時代に不忍池畔に立ち並んでいた茶屋は、恋人の密会の場としても人気を集めた。

豆漿」や蕎麦の「蓮玉庵」が営業を続けています。

近年ならではの動きもあります。いまではテナントビルが立ち並ぶ仲町ですが、かつて数多くあった風俗店などは減少傾向にあるようです。その空いたテナントにバーなどの新しい飲食店が入り始め、また違った賑わいが生まれつつあります。時代時代の賑わいが混在するエリア、それがこのまちの魅力であるとも言えるでしょう。

3 ヤミ市の痕跡を残す  
商店街・アメ横

▶戦後の上野は自由市場で活気を取り戻した  
仲町から広小路の向こう側には、上野の街のシンボルとも言える商店街・アメ横がいつも大勢の買い物客を引き寄せています。このエリアは太平洋戦争までは長屋や民家が密集していましたが、1945 年には上野一帯が空襲で焼失し、戦後の上野は焼け野原から出発することとなります。当時の東京は食糧・物資不足に陥り、人々は腹を満たすものを求めて新橋・新宿・渋谷など主要駅周辺にできたヤミ市に集まりました。都内有数の終着駅である上野駅のすぐ南側にある三角地帯の空地にも、自然と大きな青空市場が姿を現しました。売る側も、買う側も、東京に暮らす多様な人々がここに集い、創成期からこのマーケットの露天商の経営者には在日朝鮮人・台湾人、中国人、そして大陸から戻って来た引揚者の人々が多かったようです。

▶マーケットとして残り続けるアメ横

終戦の翌年には、青空市場の位置から南の御徒町駅方面に伸びる鉄道の高架沿いに、80 軒ほどのバラック作りの建物が立ち並ぶ露天商街に成長していました。このマーケットが形成された頃に多くのお店が貴重な甘味品だった芋アメを売っていたことから、「アメヤ横丁」と呼ばれるよ

終戦直後に上野駅周辺に現れた露天商が今のアメ横の始まり。

うになったと言われています。また1947 年頃から朝鮮戦争にかけて、万年筆、衣料品、タバコ、チョコレートなど、PX（米軍基地内の売店）からの横流し物資、あるいは海外から密輸入されたものを売る店舗が増えると、「アメリカ横丁」と呼ばれることもあったそうです。

都内の多くの盛り場がヤミ市から始まっていますが、街区整理や用途転換を経て街の姿が変わっていったことが多く、ヤミ市時代の痕跡をこれほど色濃く残し、今もマーケットとして機能している商店街は他にないと言えるでしょう。品揃いも時代とともに変化し、今は衣料品、フルーツ、ジュエリー、アジア食品を売る店やカジュアルな居酒屋とエスニック料理の飲食店が400 軒ほど軒を連ねます。

4 東北・アジアからの  
玄関口

▶戦後の成長を支えた上野  
アメ横の繁栄の背景には、終着駅である上野駅から北関東の農地に食糧の買い出しに行きやすいという理由が挙げられます。それ以前にも、この駅は「北の玄関口」として1883 年に開業して以来、途絶えることなく外部から数多くの人たちを受け入れてきた歴史があります。特に戦後から高度成長期にかけて夜行列車や集団就職で東北・信越・北陸から上京してきた人々の多くが上野を通過し、東京の北東部の下町に住み着いたため、今でも東北とのつながりが強い街であると言えます。

▶アジアのエスニックタウン

今では、上野は地方というより、海外から来る人々の受け皿になっています。成田空港から上野に降り立つ外国人観光客だけではなく、アジアを中心とする外国から来日した移民がこの地域に多数住んでいます。アメ横のマーケッ

トの発祥の地に1982 年に建てられた「アメ横センタービル」の地下食品街では、東南アジアの都市を思わせる香りが漂い、各国の食品を並べる店員が上野のニューカマーの多様性を物語っています。周囲の街にも、外国人のコミュニティを支える南アジアのエスニック料理のお店やモスクも集まっています。また、1948 年にアメ横から立ち退いた朝鮮人の人々が東上野にある「キムチ横丁」に移転し、今も狭い路地を取り囲むコリアンタウンが残っています。

5 現代に息づく  
ものづくりの街

▶「かちくら」の元は職人の街  
かちくらとは、御徒町と蔵前から1 字ずつとって名付けられたエリアの名称で、その名の通り御徒町と蔵前のあいだ、およそ東西1.5km ほどに広がる場所を指します。いまでは「新しいモノづくりのまち」として認知されてきているようですが、このエリアが形成されるに至った経緯を、その歴史から見ていきましょう。

江戸時代、御徒町は周辺に多くの社寺があり、池の端には花街があったことから、神・仏具、かんざしや鼈甲、刀の鐔や傘など、小物・金属加工の需要が生まれ、職人が集まっていました。戦後にはアメ横に集まる米軍の兵士との間で時計や宝石の取引が増え、バブル期以降は宝石の需要増に伴い宝飾店街になっていきました。

鳥越から蔵前の方へ進んで行くと、江戸時代は大名屋敷や幕府の御米蔵などがありましたが、明治以降用途転換が進み、関東大震災に前後して日本橋室町付近から皮革や繊維などの様々な職人が流入し始めます。以降、鳥越～蔵前は職人と卸問屋のまちとしての性格を強めていきました。今でも玩具・人形などの卸問屋を見ることができます。このように職人のまちとして形成されてきたかちくらですが、バブル期以降は東京の他のエリアと同じく、卸売業の衰退で徐々に空きビル・空きテナントが増えました。そんな中、2004 年にファッション、デザイン関連創業の支援施設として台東デザイナーズビレッジが開校します。デザイナーやクリエイターをサポートしていくうち、この「卒業生」が店舗を構えるようになり、かちくらは「新しいモノづくりのまち」となったのです。いまでは参加型でモノづくりを体感できるイベント「モノマチ」が開かれるなど、モノづくりでまちづくりを行う特徴的なエリアとなりました。

江戸時代、御徒町は周辺に多くの社寺があり、池の端に

『名所江戸百景 浅草川首尾の松御殿河岸』歌川広重（初代）（1856 年）。隅田川に面した蔵前には幕府の御米蔵が置かれていたが、20 世紀に職人と卸問屋のまちに発展した。

は花街があったことから、神・仏具、かんざしや鼈甲、刀の鐔や傘など、小物・金属加工の需要が生まれ、職人が集まっていました。戦後にはアメ横に集まる米軍の兵士との間で時計や宝石の取引が増え、バブル期以降は宝石の需要増に伴い宝飾店街になっていきました。

鳥越から蔵前の方へ進んで行くと、江戸時代は大名屋敷や幕府の御米蔵などがありましたが、明治以降用途転換が進み、関東大震災に前後して日本橋室町付近から皮革や繊維などの様々な職人が流入し始めます。以降、鳥越～蔵前は職人と卸問屋のまちとしての性格を強めていきました。今でも玩具・人形などの卸問屋を見ることができます。このように職人のまちとして形成されてきたかちくらですが、バブル期以降は東京の他のエリアと同じく、卸売業の衰退で徐々に空きビル・空きテナントが増えました。そんな中、2004 年にファッション、デザイン関連創業の支援施設として台東デザイナーズビレッジが開校します。デザイナーやクリエイターをサポートしていくうち、この「卒業生」が店舗を構えるようになり、かちくらは「新しいモノづくりのまち」となったのです。いまでは参加型でモノづくりを体感できるイベント「モノマチ」が開かれるなど、モノづくりでまちづくりを行う特徴的なエリアとなりました。

江戸時代、御徒町は周辺に多くの社寺があり、池の端に

廃校した小学校をリノベーションした台東デザイナーズビレッジ。当時の校門がそのまま玄関口になっている。



江戸の花街から発展した  
遊びの街

# 広小路・仲町 エリア

広小路・仲町界隈は、江戸時代から商売と娯楽で栄え、庶民の遊びの場として発展してきました。江戸時代から続く「遊び」の文化と言えば落語の寄席や演芸場がありますが、仲町通りや天神下飲屋街のような雑多で魅力的な通りもまた、歴史に作られた遊びの場所です。また、このエリアはものづくりやアートの顔もあります。組紐「道明」など江戸より続く老舗がある一方で、「アーツ千代田 3331」のような新たな芸術・工芸文化施設も見られます。

## スポット 1 落語

鈴本演芸場の歴史は古く、1857（江戸・安政 4）年に上野広小路に開かれた演芸場「本牧亭」がそのルーツです。その後、震災・戦災を経て現在の名前と場所になりました。落語定席での落語が主な演目となっています。一方「お江戸上野広小路亭」は1996年のオープンと比較的新しい施設で、落語寄席だけでなく、講談・義太夫などの古典芸能からお笑いライブまで幅広く上演されています。このエリアには落語協会の「黒門亭」もあり、週末には寄席が開かれています。



鈴本ビルの一階が演芸場の入り口。落語定席は人気で、すぐに満席となる。



組紐道明の店内には色とりどりの組紐が並ぶ。ネクタイなど新たな作品も。

設で、落語寄席だけでなく、講談・義太夫などの古典芸能からお笑いライブまで幅広く上演されています。このエリアには落語協会の「黒門亭」もあり、週末には寄席が開かれています。

## スポット 2 通り・路地

このエリアには数多くの魅力的な路地があります。仲町通りは春日通りが明治以降に通るまで、池之端仲町を東西に



もっとも仲町が賑わうのは夜が更けてから。通りに立ち並ぶネオンサインが繁華街独特の夜景を作り出している。

横切る唯一の道でした。いまでも仲町通り沿いには多種多様な店が軒を連ね、夜の賑わいの中心になっています。一方で南北に伸びる吹貫横丁は末広町あたりからまっすぐ不忍池に抜ける歴史ある道です。池からの風が吹き抜けることからこの名前がつけました。五合飲んでも風に当たれば酔いが覚めるという逸話から、五合通りとの別名もあります。

## スポット 3 花柳界の老舗

ここには花柳界にまつわるいくつかの老舗が残っています。組紐「道明」は1652（承応元年）年に創業した360年以上の歴史をもつ屈指の老舗で、いまでも職人が手作りで組紐を作っています。また、1736（元文元年）年に開業したつげ櫛の「十三や」も不忍通りのお店で伝統工芸を続けています。15代目の店主が今も手作りで櫛を彫っています。

## スポット 4 アーツ千代田 3331

2010年に誕生した文化芸術施設です。統廃合で閉校した鍊成中学校をリノベーションした建物で、学校の持つ独特な様式が残されています。ただのギャラリーとしてだけでなく、オフィスやカフェなど様々な施設が、学校教室という小スペースを活用して数多く入っています。また、正面の芝生を張った広場では人々がくつろぎ、一階のフリースペースには小さな子供を連れた主婦が遊びに訪れるなど、地元の人にも親しまれている、このエリアの新たなアートの拠点になっています。



建物の前に広がるデッキと公園には、いつも人がくつろいでいる。

## スポット 5 不忍池

不忍池は古くから庶民に親しまれてきたオープンスペースで、東京では数少ない豊かな水辺と言えます。江戸時代に寛永寺が建立されると、開祖の天海は不忍池を琵琶湖に見立て、池の中央に弁天堂を作りました。これはいまでも人気の観光スポットになっています。その後、戊辰戦争の一つ・上野戦争の戦地になったり、明治政府の管轄下に置かれ、上野公園に編入されてからは競馬場や博覧会の会場になったり、戦時中には食糧生産のために田畑になったりと、時代によって様々な使われてきました。現在ではご存知の通り、皆に親しまれる憩いの場となっています。



8月が蓮の最盛期。蓮に埋もれた池の向こうには弁天堂が見える。

戦後のヤミ市から誕生した  
商売の街

# アメ横・ 御徒町エリア

このエリアは、戦後直後には旧植民地からの引揚者を中心に、復員兵や周辺農村部の担ぎ屋、関西からの在日コリアンなどが流入して形成されたマーケットに起源をもつアメ横が広く知られていますが、それに限らず松坂屋、多慶屋、赤札堂など昔からの商売の歴史があるエリアです。また北側の上野駅は古くは東北からの上京者を受け入れる北の玄関口として、またその後は海外からの来訪者の玄関口として、常に外からの人々を受け入れてきた場所でもありました。

## スポット 1 摩利支天山（徳大寺）

アメ横の喧騒のなか、戦後のマーケット時代から続く老舗菓子店「二木の菓子」の階上に摩利支天を祀る徳大寺があります。創建は17世紀半ばの寛永年間と古く、諸難を退け勝利に導く神様として庶民の信仰を集め、アメ横商店街の移り変わりをつねに見守ってきました。正午と夕方6時に鳴る鐘の音はアメ横の広い範囲で聴くことができます。



賑やかなアメ横のなかで静ひつな雰囲気を漂わせている摩利支天。



アメ横の入り口の様子。いつも多くの人々が行き交い、賑わいをみせている。

## スポット 2 燕湯

上野が地方出身者を大勢受け入れる中で、新しい土地での暮らしを支えた場所の一つが銭湯でした。国指定登録有形文化財の燕湯の屋号は先代の店主の出身地である新潟県燕市の地名に由来します。都内の銭湯では珍しい朝風呂を沸かしていることで知られており、湯の温度が45度以上と非常に熱いので入浴の際は注意が必要です。



20世紀半ばの典型的な銭湯建築である燕湯。



アジア各国の食品が地下の隠れた市場に広がっている。

## スポット 3

## アメ横センタービル地下食品街

アメ横のヤミ市が誕生した土地に建つアメ横センタービルの地下食品街の店にはアジア各国のハーブ、スパイス、野菜、珍しい魚や肉が並べられています。豊富な品揃いのみならず、バンコクや香港のマーケットに踏み入れたかのような独特な雰囲気は、東京で一番アジアに近いマーケットだと感じさせます。



コリアンタウンではキムチや食肉などの韓国食料品が多く並んでいる。

## スポット 4 キムチ横丁

東京のコリアンタウンという新大久保や赤坂が有名ですが、上野から日暮里までの一帯は終戦直後に起源をもつ都内で最も古いコリアンタウンと言われます。その一角にある「キムチ横丁」は、後にアメ横商店街となった戦後のマーケットから枝分かれて生まれた場所で、韓国料理店や食料品店が並んでいます。キムチ横丁の北側にはパチンコのショールーム店が建ち並ぶエリアもあり、在日コリアンの戦後史の一端を感じられる場所となっています。

## スポット 5 アッサラーム・ファンデーション

御徒町駅から歩いて数分の場所にイスラームのモスクがあります。2011年に落成したこのモスクは、1階は地域の集会所、上階はイスラームの人々のための礼拝施設となっています。都内の数少ないモスクとして、地域で生活するイスラームの人々だけでなく、観光で東京を訪れた人々を宗教的・精神的に支えています。近年ではハラル認証を取得した焼肉店やラーメン店、寿司店も付近に現れ、食文化の面からもイスラームとの結びつきが深まっています。



アッサラーム・ファンデーションでは毎日5回礼拝が行われている。



伝統と最先端をつなぐ  
ものづくりの街

# かちくらエリア

デザイナーがまちへ入り込み、「モノマチ」のようなエリアを巻き込んだイベントで賑わうかちくらでは、ビルのリノベーションやカフェの進出など新たな動きも見られます。しかし、その基層にあるのは昔から続く職人・卸問屋としてのまちの性格です。ここでは、江戸時代のものづくりの文脈を引き継ぐ仏壇通りから、現在のものづくりの先端である台東デザイナーズビレッジ周辺の店舗群や AKI-OKA2k540 まで、ものづくりの時代の複層性を感じられるスポットを紹介します。



今でも屋へタ方にかけては地元の人出が多く、活気を見せる。

## スポット 1 佐竹商店街

春日通りから清洲橋通りに南北に伸びる、全蓋式アーケードを持つ 330m の商店街です。歴史は明治まで遡り、秋田藩の屋敷跡にできた見世物小屋・寄席などが集まる盛り場としてのルーツを持ちます。関東大震災後も店が一九丸となった復興を遂げました。今では日本で 2 番目に、東京では最も古くから残る商店街と言われています。近年ではインド料理や中国料理などエスニックな文化も流入しています。

## スポット 2 仏壇通り

仏壇通りには、通りの南側におよそ 50 軒ほどの仏壇・仏具店が軒を連ねています。これほど多くの仏具店が集まっている地域は他に例を見ません。仏具に限らず、線香や仏



看板建築の玩具問屋と高層のペンシルビルが入り混じって立ち並ぶ様子が蔵前の今を象徴している。



仏具店が軒を連ねる一角。日陰になる店先には様々な仏具が並ぶ。

像から神棚まで、宗教用具が揃います。店舗が南側に集まっているのは、直射日光による商品の日焼けを避けるためとのこと。歴史は古く、江戸時代の寛永寺の建立に端を発し、東側には浅草寺があることもあってこれだけの集まりを見せています。キッチン用具で有名な合羽橋道具街と交差しており、上野と浅草をつなぐルートとして古いものづくり文化に触れられるエリアです。

## スポット 3 おかず横丁

おかず横丁は全長 230m ほどの通りに 60 軒ほどの店舗が並ぶ商店街です。明治・大正時代から点在していた総菜屋や日用品店が、関東大震災後の区画整理などを機に通りに集まりました。戦前・戦後は職人・町工場のまちとなっていたこのエリアで働く人々が、ここに来ておかずを買えばご飯が食べられる、とのことからこの名前がついたようです。創業 100 年を超える老舗も見られます。



通りに並ぶ照明とノボリが目を引く。モノマチの時期には軒先に店を出し、多くの人で賑わいを見せる。

## スポット 4 台東デザイナーズビレッジ

日本で唯一のモノづくり系デザイナー・クリエイターの創業支援施設で、廃校となった小島小学校をリノベーションして使っています。ビレッジに普段入ることはできませんが、イベント「モノマチ」の期間はクリエイターとの直接の交流を楽しむことができます。文具店「カキモリ」のオーナーのように、ここを「卒業」してかちくらに店を構える人も多くいます。また、「木本硝子」のような昔からこのエリアで店を構えるモノづくり職人たちが様々なイベントを開き、まちの新たな魅力を高めています。特にデザイナーズビレッジ・鳥越・蔵前周辺には個性的なお店やアトリエが集中しています。

## スポット 5 AKI-OKA 2k540

2010 年にオープンした AKI-OKA 2k540 は御徒町駅と秋葉原駅の間、JR 線高架下を活用したモノづくり系アトリ



列状に立ち並ぶ白い高架の支柱が特徴的な空間を演出している。

かちくらエリアをさらに散策

## かちくらのものづくり文化に触れる

### 木本硝子

1931 年創業、江戸切子を筆頭に硝子食器を作り続けています。「伝統を守り、伝統を進化させる」ことをテーマに、異業種のデザイナーやクリエイターをパートナーとする革新的な硝子プロデューサーの店です。  
住所……台東区小島 2-18-17  
電話番号……03-3851-9668



### SyuRo

2008 年台東区にオープン。食器など生活日用品のオリジナル商品やセレクト品を扱う生活デザイン雑貨店です。デザイナーズビレッジ卒業生の宇南山加子氏がディレクターをつとめます。元の町工場をそのまま使った店舗も特徴的です。  
住所……台東区鳥越 1-16-5  
電話番号……03-3861-0675



### 郡司味噌漬物店

1957 年創業。おかず横丁に店を構える味噌・漬物店です。店主のこだわりで、大量生産ではない天然醸造の味噌を販売しており、各地の味噌蔵と協力して多種の味噌を揃えています。  
住所……台東区鳥越 1-14-2  
電話番号……03-3851-1783



### カキモリ

2010 年に蔵前にオープン。オーダーメイドできるノートや万年筆用インクが使えるオリジナルのボールペン・万年筆、色彩豊かな顔料インクなど、「たのしく書く」ための道具を取り揃える異色の文具店です。  
住所……台東区三筋 1-6-2  
電話番号……050-1744-8546



NOHGA HOTEL  
UENO

地域との深いつながりから生まれる素敵な経験  
ノーガホテル上野  
2018 年 11 月 1 日開業

その地域と深くつながること。そこから生まれる素敵な経験をノーガホテルは大切にします。上野という街は、江戸から現在まで変わらない、ものづくり文化が根付いています。この土地に生きる人々とともに、ここでしか経験できない滞在時間をゲストのみなさまにお届けします。



ノーガホテル上野  
住所●東京都台東区東上野 2 丁目 21-10  
交通●JR 山手線・京浜東北線他「上野駅」広小路口徒歩 5 分  
東京メトロ銀座線・日比谷線「上野駅」3 番出口徒歩 3 分  
WEB ● <https://nohгахotel.com/ueno/>

## 東京文化資源会議は 上野スクエア構想を 推進します

### 上野スクエアとは

「スクエア」とはまちの中心にある広場、オープンスペース。様々な通りが交わり、様々な人が行き交う出会いの場所。東京文化資源区をひとつのまちとして捉えたとき、その 3km 圏のセンターに位置するのが上野界隈でした。上野には美術館や博物館など豊富な施設型文化資源がありますが、それらに加えて“文化と街”“上野を南から面白くする”を合い言葉に、上野の「街」の文化資源・魅力を掘り起こすべく「不忍池」「湯島天神」「広小路・御徒町」「アーツ千代田 3331」が囲むエリアを「上野スクエア」と見立て、将来構想を練っています。東京文化資源区の中で、多様な文化が交わり、出会い、高め合う、そんな上野界隈への期待、希望、可能性を描こうとするプロジェクトです。



旭硝子株式会社は  
「AGC株式会社」に社名変更しました

私たち AGC は、お客様とゆるぎない信頼関係を築きながら、互いの知見や技術を掛け合わせ、独自の素材とソリューションで、人々の想いの先、夢の実現に挑んでいます。

Your Dreams, Our Challenge

AGC

AGC 株式会社  
住所●〒100-8405 東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸の内ビルディング

### AGC Studio

来るたびに新しい発見がある  
AGC の未来創造スペース  
<http://www.agcstudio.jp/>  
お問い合わせ●03-5524-5511  
住所●〒104-0031 東京都中央区京橋 2-5-18  
京橋創造館 1・2 階

